

# 兵庫縣宍粟郡船越山植物概要

建 部 恵 潤

## 1. 緒 言

昭和14年8月1,2日会長阿部良平先生格別の御配慮によつて兵庫県博物学会により船越山植物採集会が催され、田代善太郎先生は採集会を御指導になつたのみでなく船越山植物地理概説をまとめることを命ぜられ、帰途の車中で早速御指導を仰ぎ、其後の御教示によつて一応出来上つたが発表の機会をうしないそのまゝになつてゐた。昭和17年三河小学校で謄写印刷下さり、郡内各小学校へ配布されたのが播磨船越山植物小誌である。私のため余分に印刷下さつたものは途中でまぎれて終に手に入らず同好各位の御高覧に供することができなかつた。今回田代、阿部両先生追悼号の出版に當つて、其後の知見を加え、両先生の御霊前に捧げ謝恩の一端としたい。

昭和8年夏初めて船越山の植物に見えて以来30数回の採集を重ねたが、今なお新植物を得て完全なるフロア調査の困難さを切実に感じる。本稿は全くフロアの概要を示すもので、完全なる植物誌は尙今後の精査を待たねばならないと思う。又此の間格別の御厚意をよせられた瑠璃寺住職大江興源師並に近年御協力を賜る三土中学校教官内海功一氏に甚深の謝意を表するものである。

## 2. 植物景觀の概要

船越山(562)は兵庫県(播磨)宍粟郡三河村字船越にあつて、西は佐用郡石井村、北は宍粟郡千種村に隣接し、北には近く岡山県境に日名倉山(1047)があり、さらに北には播磨の最高峰三宝山(1358)をはじめ中国山系の高峰が列立している。この山系から発した千種川は東方山麓を南流して瀬戸内海に注いでいる。

歴史的に見ると船越山は中腹にある真言宗瑠璃寺の寺領として古来森林がよく保護されたので分布上興味ある植物も少くない。しかし近年全焼した堂宇の再建と社会事業博愛病院の設立経営のため600町歩余の森林の大半が伐採され、約300年前第27代の住侶真願が植林した山門から奥院に至る間の見事な杉並木さえも大半をうしなうに至つた。しかしながら溪間その他に昔日のおもかげが残り、分布上注目すべき種類は絶滅したものもなく、当地方フロアの代表としての価値を保っている。

現在残された自然的樹林は奥院西南一帯の森林で、約300年と推定され、コハウチワカエデ、アズサ、イヌシデ、イヌブナ、ヤマザクラ、イヌザクラ、ケヤマ

ザクラ等の落葉喬木、ウラジログシ、ヤブツバギ、ヒサカキ、サカキ、ツクバネガシ、ヤブニツケイ、シロダモ等の常緑闊葉樹、モミ、ツガの針葉樹を主体とし、目通6m、樹高30mのモミが最大である。このような林相は暖帯北部特有の林相で、又中国山系南面の自然的林相である。

次に山門から奥院に至る約2kmの参道附近は杉並木の伐採によつてかなりいためられたが最も種類の豊富な区域である。この区間は(A)山門から溪流に沿つた本坊上方までの部分と、(B)それより西方の山腹部とに分れる。(A)区には当地方山地樹陰に普通な草本、木本及び羊歯類が多いのみでなく、ナベナ、オオアキギリ、オオバチドメグサ、ヤマアイ、ミフモトソウ、ムカゴイラクサ、ミヤマイラクサ、キバナサバノオ、ハルトランオ、キクカラグサ、クマガエソウ等や、稀な草本類が見られ、イワヤシダ、ノコギリシダ、ミヤマノコギリシダ、オオヒメワラビモドキ、イワヘゴ、サイゴタイノデ、サカゲイノデ、ツヤナシノデ、キヨズミヒメワラビ、ヒロハヤブソテツ、チャセンシダ、イヌチャセンシダ等70種に及ぶ羊歯類のほとんどが見られる。又(B)地域にはイナモリソウ、カウモリソウ、シソバツツナミ、トンボソウ、イヌマムカゴ、ミヤマトベラ、ユクノキ、ヨコグラノキ、イイギリ、クロタキカヅラ等が著しい。

要するにこの地域は杉並木が長年月伐採されなかつたこと、溪流の水量が豊富で湿度が大きいことによつて、樹陰を好む植物の生育を旺盛ならしめたものと考えられる。

しかし杉並木伐採のため日光の直射が多く土地の乾燥も甚しくなり、羊歯類、草本類、蘚苔類の群叢は近年かなりの変遷を生じ不安定な状態を示していることも見のがせない。最も著しいのは溪流附近のツリフネサウ群落が著しく勢力を得て他の草本類を圧迫していることである。

今ひとつ特筆すべきは池の谷の景観で、この谷は大小の岩石によつて谷がうすめられ溪流はその下をくゞつて地下水となつてゐる。従つて夏期は水温低く、冬は高い。岩隙は空洞となつてゐるため夏期になると空洞中の冷い空気は多量の水蒸気を伴つて地表上に上昇し、一帯は温度低く且つ水蒸気に被われて湿度が大きく、地上、岩上、樹幹は蘚苔、地衣類の生育が特に盛んである。コタニワタリ、オシダ、カリガネソウ等北

系要素がこの地帯のみに見られることは夏期の低温と関係あるものゝようである。現在この地域の樹令は30年程度であるが、今後伐採しないことになったから将来日光が地表に直射しなくなれば小規模な藓苔林の形成も予想され特異な景観を呈するに至るであろう。私はこの一帯を池の谷夏期低温地帯と名づけたと思う。

最後に脊稜の乾燥した場所では当地方一般に見られるコバノミツバツツジ、ヤマツツジ、ミヤマウグイスカグラ、コハクウンボク、リョウブ、アオハダ、コゴメウツギ、コハウチワカエデ、ヒイラギ、アセビ、ソヨゴ、イヌツゲ、ヤマウルシ、コナラ、ウラジロノキ、カマツカ、リンボク、カナクキノキ、クロモジ、ダンコウバイ等が多く、モミ、ツガの多い部分もある。

### 3. 植物分布地理の概要

#### (A) 南系植物及び暖地性植物

南系植物とは中部、南部支那と分布関係のあるもの及び九州、四国及び近畿以西の本土を分布の中心とする要素をいふ、暖地性植物とは台湾、琉球と分布関係を有し、海流のえいきようによつて本州に及ぶ要素である。船越山の植物を見ると南系暖地性要素がフロラの基礎となつてゐる。次に両要素に属する著しいものを列挙してみると、

〔木本類〕(きく科) コウヤボウキ、(すひかづら科) スイカズラ、ゴマキ、ニワトコ、ミヤマウグイスカグラ、(しんけい科) ミカエリソウ、(くまづら科) ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、(まちゃん科) チトセカツラ、(けようちくとう科) テイカカツラ、(とうわた科) キジヨラン、(ひいらぎ科) ヒイラギ、(かきのき科) カキ、(やぶこうじ科) ヤブコウジ、マンリョウ、カラタチバナ、(えごのき科) コハクウンボク、(しやくなげ科) コバノミツバツツジ、アセビ、バйкаツツジ、ウスギヨウラク、スノキ、(みずき科) アオキ、クマノミズキ、ハナイカダ、(うこぎ科) タラノキ、キツダ、(うりのき科) ウリノキ、(ぐみ科) ナワシログミ、ナツアサドリ、(ぢんちようげ科) コシヨウノキ、(つばき科) サカキ、ヒサカキ、ヤブツバキ、(いいぎり科) イイギリ、(ぶどう科) アマヅル、サンカクヅル、ツタ、(くろろめもどき科) コバノクロウメモドキ、ヨコグラノキ、ケケンボナシ、(あわぶき科) アワブキ、ミヤマホウソ、(かえで科) ナドリノキ、イロハモミジ、オオモミジ、メグスリノキ、(くろたきかづら科) クロタキカ

ヅラ、(そよご科) ソヨゴ、(たかとうだい科) コバンノキ、ユズリハ、シラキ、(にがき科) ニガキ、(へんろうだ科) コクリギ、サンシヨウ、イヌザンシヨウ、カラスザンシヨウ、(まめ科) ユクノキ、ミヤマトベラ、ジャケツツイベラ、(ばら科) ヤマザクラ、ヒガンザクラ、ウラジロノキ、ヤマブキ、カマツカ、ヤマイベラ、ピロウドイチゴ、ナガバノモミヂイチゴ、フユイチゴ、クサイイチゴ、リンボク、(ゆきのした科) イワガラミ、ウツギ、ウラジロウツギ、コガクウツギ、(くすのき科) アブラチャン、カナクキノキ、クロモジ、オオバケクロモジ、ダンコウバイ、ヤブニツケイ、シロダモ、カゴノキ、(もくれん科) タムシバ、ビナンカヅラ、シキミ、(つづらふじ科) オオツヅラフジ、(めぎ科) ナンテン、(あけび科) トキワアケビ、ミツバアケビ、(うまのあしがた科) ハンショウヅル、(ふさぎくら科) フサザクラ、(いらくさ科) コアカソ、(くは科) コウゾ、ヤマゲハ、(にれ科) ケヤキ、(ぶな科) アラカシ、シラカシ、ウラジログシ、ツクハネガシ、クリ、クヌギ、(かばのき科) アカシデ、イヌシデ、アズサ、(いちい科) カヤ

〔草本類〕(きく科) ヒメガシキソウ、ムラサキニガナ、ヤブレガサ、(うり科) モミジカラスワリ、(すいかづら科) ソクズ、(あかね科) イナモリソウ、オオキヌタソウ、(はぐろそう科) ハグロソウ、(いわたばこ科) イワタバコ、(ごまのはぐさ科) キクカラクサ、(なす科) マルバノホロシ、イガホオズキ、(しんけい科) オオアキギリ、(たかとうだい科) ヤマアイ、(さくらそう科) ミヤマタゴボウ、(かたばみ科) ミヤマカタバミ、(ゆきのした科) ユキノシタ、クサアジサイ、ヤマネコノメ、チダケサシ、コチヤルメルソウ、(けし科) タケネグサ、(うまのあしがた科) イチリンソウ、ヒメウス、ユキワリイチゲ、キバナサバノオ、(うまのすくさ科) フタバアオイ、(いらくさ科) ウワバミソウ、ヤブマオ、(らん科) ムギラン、クモラン、ベニカヤラン、イイヌママカゴ、クマガエソウ、ヒメノヤガラ、(竹笹科) ルリデラスダケ①、(つゆくさ科) ヤブメウガ、

〔羊齒類〕(いわひば科) カタヒバ、イワヒバ、(うらじろ科) コシダ、(かにくさ科) カニクサ、(うらばし科) クジヤクシダ、チヤセンシダ、イヌチヤセンシダ、ヤマイヌワラビ、ヌリワラビ、シシガシラ、イワガネソウ、コバノイシカグマ、キヨタキシダ、ヤワラシダ、フモトシダ、イヌシダ、シノブ、サツラ

註 —を引くものは暖地性要素である。

① 船越山は type 産地。兵庫生物 Vol. 1, No. 3 参照。

ン、ヒメサザラン、ノキシノブ、アオネカヅラ、クマワラビ、シラガシダ、イワトラノオ、ヌリトラノオ、オオバノイノモトソウ、オオバノハチジョウシダ、シケシダ、マメヅタ、ミゾシダ、ゲジゲジシダ、ハシゴシダ、イハハゴ、オオクツヤクシダ、イノモトソウ、ヒロウドシダ、シシラン、イワヤシダ、オオヒメワラビモドキ、ノコギリシダ、ミヤマノコギリシダ、ヒロハヤブソテツ、カナワラビ、ハカタシシダ、タニイヌワラビ、ミヤコイヌワラビ、イノデモドキ、サイゴクイノデ、(ぜんまい科)ゼンマイ、(きじのおしだ科)キジノオシダ、オオキジノオ、(こけしのぶ科)ウチワゴケ、アオホラゴケ、ホソバコケシノブの如き多数の要素をあげることができる。

南系植物中支那大陸と分布関係を有するものとしてヤマイバラ、クロタキカヅラ、ユクノキ、ジャケツイバラ、シキミ、ヨコグラノキ、イワヤシダ等が所謂中部支那要素として著しく、近畿地方を分布の中心とする分子にミカエリソウ、ウラジロウツギ、ユキワリイチゲ等があり、中国地方を分布の中心とするものにはナトセカヅラ、ナツアサドリ、キバナサバノオ、モミジカラスウリの如きものが見られる。

次に暖地性要素として著しいのはサカキ、ヒサカキ、ヤブツバキ、リンボク、カゴノキ、シロダモ、ヤブニツケイ、シキミ、ユズリハ、アセビ、マンリョウ、ヤブムラサキ、シラキ、イイギリ、イヌザンショウ、ヒメノヤガラ等があり、又シダ類の多くは台湾、琉球と分布関係を有するものである。

#### (B) 北系植物

北系植物要素とは沿海洲、カムチャツカ半島、樺太、千島、北海道と分布関係を有するもので、本州中部以北の山地に多く、本州西南部、四国、九州に及ぶものである。船越山では南系暖地要素に比して種類、個体共に少いが主なものは、(きく科)キクバヤマボクナ、ノブキ、ヤマニガナ、(あかね科)オオバノヨツ

バムグラ、(いちやくそう科)ウメガサソウ、(リョウぶ科)リョウブ、(みずき科)ミズキ、(うとき科)ハリギリ、コシアブラ、(さるなし科)マタタビ、(いそのき科)クマヤナギ、(つりふねそう科)ツリフネソウ、キツリフネ、(とちのき科)トチノキ、(かえで科)イダヤカエデ、メグスリノキ、ナドリノキ、(にしきぎ科)ツリバナ、(もちのき科)アオヘダ、(うるし科)ツタウルシ、(まめ科)サイカチ、(ばら科)ケヤマザクラ、ウツミズザクラ、コゴメウツギ、(ゆきのした科)ノリウツギ、ネコノメソウ、ダイモンジソウ、イハボタン、(もくれん科)ホホノキ、(あけび科)ミツバアケビ、(うまのあしがた科)トリアシショウマ、ルイエウショウマ、(かつら科)カツラ、(くまつとら科)カリガネソウ、(いらくさ科)ムカゴイラクサ、ミヤマイラクサ、(にれ科)エゾエノキ、(せきちく科)ナンペンハコベ、フシグロセンノウ、(禾本科)タツノヒゲ、(かやつりぐさ科)カンスゲ、タニカワスゲ、(うらばし科)コタニワダリ、ナライシダ、リョウモンシダ、イヌガンソク、ジュウモンジシダ、オシダ、ミヤマシケシダ、サカゲイノデ、オシヤグジデシダ、(はなやすり科)ナツノハナワラビ等である。

この中カンスゲ、キクバヤマボクナは日本海側を分布の本拠とするもので、わづかに山脈を越えて南下している。又カツラ、トチノキは大木がわづかに見られるに過ぎず、一般に当地方山地に普通に産するものばかりである。

要するに船越山のフロラは南系暖地要素によつて成り、その間わずかに北系要素を交え暖帯北部のフロラを形成するものといえる。構成要素中にミヤマトバラ、ヨコグラノキ、クロタキカヅラ、キクカラクサ、ヒメノヤガラ、イワヤシダを含むことは船越山のフロラを特色づけると共に、分布上注目すべき点である。

(Feb. 10, 1952)

## 神戸税関附近に渡来した一植物

### 村 田 源

昨年筆者が山城産ヒユ科植物の調査をやつていた際京大の標本庫の中で宇野確雄氏が1939年に神戸税関構内で採集されたヒユ科の珍しい1植物の標本が出て来たのでしらべて見ると、フルノゲイトウ属の *Alteranthera repens* (L.) O. Kuntze であつて渡来植物として我が国では未記録のものであつた。これはブラジル、チリー、ペルー、メキシコ、カナリー諸島より北米のカロリナ州一帯の中南米に広く分布する雑草である草状を簡単に記しておくと、匍匐性の多年草であつ

て、茎は多く枝を分ち径2mm内外で脱落性の白毛があり、葉は倒卵状広楕円形、長さ1.5-3cm内外、3mm内外の短柄があり先端は鈍頭で小さい刺があり、若い時は有毛である。花序は無柄で葉腋にあり、苞及び小苞は膜質で卵状披針形、1脈があり先端はするどい刺状となり、長さ3mm内外で無毛又はやや有毛。花被は不同で5片、2ヶは卵状披針形で長さ5mm内外、3脈があり先端はするどく鋭尖し基部は脈上に白毛がある。1ヶはやや短く先端は鋭頭で3脈あり長卵形で脈上基部